

看護研究 第31巻 総目次

1998年(第1号～第6号)

[表示は、題名、著者名(号)掲載頁]

焦点◆ヘルスプロモーション活動の実践と課題

(企画：安酸史子・近本洋介・高村寿子)

健康学習者の自己効力感／健康教育者の自己効力感

近本洋介 (1)3-12

スタンフォード大学病院の糖尿病ケアプログラム

Beverly A. Dyck／近本洋介監訳 (1)13-22

慢性疾患の自己管理：第3次予防のためのモデル

Kate Lorig／近本洋介監訳 (1)23-29

自己効力を高める糖尿病教育入院プログラム開発への

挑戦と課題 6ステップ・メソッドを適用して

安酸史子・住吉和子・三上寿美恵・佐々木雅美・佐藤元香 (1)31-38

日本における禁煙指導の実際 増居志津子・中村正

和・大島明 (1)39-48

職域におけるヘルスプロモーション活動の模索と課題

健保組合のヘルスプロモーション・コーディネーターの立場から 秋葉栄久子 (1)49-53

日本におけるヘルスプロモーション活動の課題と試案

スタンフォード大学医学部疾病予防研究センターの活動からの学びを通して 高村寿子 (1)55-65

焦点◆看護ケアの質の評価指標と評価方法の開発

(企画：片田範子)

看護ケアの質の評価基準に関する研究 指標開発 片

田範子・内布敦子・上泉和子・山本あい子 (2)3-8

看護ケア構造指標の開発と検討 試案作成まで 内布

敦子・河野文子・高谷裕紀子・和泉成子・片田範

子・柴田秀子・三上由郁・青本さとみ・小竹雪枝・

鈴木真知子・鈴山久代・磯村須眞子・遠藤俊子

(2)9-20

看護ケア構造指標の使用と検討 試案のプレテスト結

果から 内布敦子・河野文子・高谷裕紀子・和泉成

子・片田範子・柴田秀子・三上由郁・青本さとみ・

小竹雪枝・鈴木真知子・鈴山久代・磯村須眞子・遠

藤俊子 (2)21-28

看護ケア過程指標の開発 山本あい子・片田範子・大

崎富士代・中込さと子・縄秀志・小高恵実・上泉和

子・竹崎久美子・大川貴子 (2)29-35

看護ケア過程指標の検証 山本あい子・片田範子・大

崎富士代・中込さと子・縄秀志・小高恵実・上泉和

子・竹崎久美子・大川貴子 (2)37-57

看護ケア結果指標と測定用具の開発 近澤範子・勝原

裕美子・小林康江・塩塚優子・中岡亜紀・片田範

子・粟屋典子・蝦名美智子・平尾明美 (2)59-69

焦点◆災害看護学の構築に向けて(I)

(企画：近田敬子)

文献からみた災害看護学の現状 佐藤貴美子・片田範

子 (4)3-12

火山噴火・重油流出事故による災害時の保健活動 石

垣和子・別所遊子・林喬子 (4)13-24

阪神・淡路大震災時の看護ボランティア活動の分析と

評価 上泉和子・竹崎久美子・勝原裕美子 (4)25-

36

地震災害の急性期における救急看護 高橋章子 (4)

37-47

災害による心理的影響と回復過程への支援 文献検討

に基づく考察 近澤範子 (4)49-61

阪神・淡路大震災による被災者への中期的ケア 継続

的なケアを通してみた仮設住宅における高齢者のセ

ルフケアの変化とその要因 池田清子・中野智津

子・能川ケイ・梶谷佳子・生島祥江・藤本悦子・西

田恭仁子 (4)63-71

焦点◆看護診断に関する研究と今後の課題

研究テーマとしての看護診断と看護知識体系 松木光

子 (6)3-11

日本における看護診断 20年の歩みと今後の課題 草

刈淳子 (6)13-25

看護診断に関する研究の動向 江川隆子・山本洋子

(6)27-33

看護診断カテゴリーの「使用頻度」「重要度」「適切

性」に関する研究 大谷英子・山本裕子・松木光

子・小笠原知枝・江川隆子 (6)35-44

〔原著論文〕

- がんという病気をもちながら生活をしている人にとってのゆとりの意味の探求 伊藤由里子 (1)77-88
- こころのケア場面における臨床判断の構造と特性
中西純子・梶本市子・野嶋佐由美・中野綾美・宮田瑠理・畦地博子・長戸和子・宮井千恵・梶原和歌 (2)71-81
- 小児がん患者—看護婦関係における看護婦の心理的な距離感の構成因子と意味 鈴木千衣 (2)83-92
- がん患者用自己効力感尺度作成の試み 塚本尚子 (3)2-10
- 患者の術前不安と手術受容度の関連 尿中カテコールアミンと状態不安による分析 根本良子 (3)11-24
- 地域で生活をする精神分裂病者の自己決定に基づくセルフケア行動の実態 宇佐美しおり (3)25-38
- 臨床実習における学びの様相 現象学的アプローチによる体験世界の記述 杉山喜代子・鈴木治代・田中悦子・浦田照美・紅林伸幸 (3)39-52
- 臨床看護実習プログラム“鼓モデル”の開発 ケアリングの考えを用いた臨床看護実践モデルとアクティブラーニング理論の連動 野並葉子・足利幸乃・縄秀志・豊田邦江・飯岡由紀子 (5)2-8

〔総説〕

- 産業看護サービス利用者の産業看護婦に対する役割認識と役割期待に関する研究成果と今後の展望 佐藤直子 (3)53-62
- 看護とタッチに関する研究動向 1970年代から1990年代まで 藤野彰子 (5)9-18
- 多胎児家庭のかかえる問題点とその対策 横山美江 (6)45-52

〔研究報告・調査報告〕

- 一人暮らしの女子学生のダイエット行動への動機づけ介入と知識提供介入の比較 自己効力感を中心として 岡美智代・宗像恒次 (1)67-75
- 笑いの睡眠への影響 新田章子・渋谷優子・井上昌次郎 (3)63-71
- MRSA 感染患者のケアに着用した予防衣の細菌汚染度と紫外線による殺菌効果 工藤綾子・鈴木淳子・服部恵子・高峰道子・山口瑞穂子・村上みち子・山下暢子・嶋森好子・堀木恵美子・田中郁子 (3)73-80

- 徘徊多動を呈する痴呆患者のケア 『Outdoor アクティビティ・ケア・プログラム』と『徘徊付加食』の有用性 前場幸登・進藤由美架・原田和子・渡辺福子・梅田由子・奥嶋実江・竹内たみ子・土居智美・末丸修三 (4)73-84
- 急性錯乱状態患者に対する看護婦の診断に至る過程 情報の活用に焦点を当てて 會田信子 (5)19-30
- 母親にとっての PEER との接触 親の会の意味 新谷優子 (5)31-38
- 看護婦のメンタルヘルスに関する調査 細見潤・藤本洋子・片平久美・池田政和 (5)39-45
- 学生の行動変容からみた成長過程 基礎看護実習における看護教員の評価より 佐々木幾美 (6)53-62

〔資料・研究ノート〕

- Interpersonal Relationship Inventory 日本語版の作成過程 真壁玲子 (5)47-56
- 看護研究に使える生体計測法 藤井正子 (5)57-65

〔学会報告・News〕

- 今後の看護診断のあり方を考える 25 周年を迎えた NANDA とタクソノミー II 藤崎郁 (5)67-74
- 看護教育学の体系化を目指して「看護教育学 0 からの出発と継続」 日本看護教育学会第 8 回学術集会をふり返って 定廣和香子 (6)70

連載・調査研究向上のために 河口てる子

- ⑬看護調査研究の実際 尺度の妥当性検討 (1)89-93
- ⑭翻訳尺度作成の実際 作成プロセスと信頼性・妥当性の検討 (2)93-98
- ⑮看護の有効性を検証する場合の調査研究 実験スタイルの評価研究 (3)83-87
- ⑯看護調査研究の実際 多変量解析：因子分析を使った研究 (4)85-90
- ⑰看護調査研究の実際 多変量解析：判別分析を使った研究 (5)77-81
- ⑱看護調査研究の実際 因果関係の推定：重回帰分析・パス解析 (6)63-69